慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	自動車メーカー外注政策の決定要因に関する一考察
Sub Title	
Author	小川敏明(Ogawa, Toshiaki) 小林規威
Publisher	慶應義塾大学大学院経営管理研究科
Publication year	1981
Jtitle	
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	複写許諾が必要
Genre	Thesis or Dissertation
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40003001-00001981-0130

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

No. 0130

学生氏名　小川敏明
（大同特殊鋼株式会社）
所属ゼミナール　小野桂之介　研

主査　小林規威　教授
副査　小野桂之介　助教授
青井倫一　助教授

自動車メーカーの外注政策の決定要因に関する一考察

日本の自動車メーカーの場合、欧米自動車メーカーに比べ外注比率が非常に高い。日本の自動車工業は戦後ほぼゼロの状態から出発して今日の世界的規模に達しているのであるが、この間いかなる意思決定が介在して、欧米とは異質の外注形態が定着したのであろうか。本研究の目的は主に自動車メーカーの立場にたって、その外注政策を決定せしめた要因を解明することである。

まず最初に日本の自動車メーカーの外注政策の基本構造が確立したと考えられる終戦から昭和46年の資本自由化に至るまでの期間について、文献研究によって世界経済、日本経済、自動車工業の動きを関連付けながら自動車工業の発展過程を歴史的にたどってみる。

次に外注政策の意志決定に関わる諸要因の因果関係を自動車部品外注モデルという形で表わし、その中で3種類の仮説を提唱する。そしてこの仮説と外注比率に関して重回帰分析を行い結果を検証する。

さらに最終章では自動車工業発展過程における種々の歴史的事実と重回帰分析の結果の両方を踏まえて、拡大自動車部品外注モデルを考え、戦後日本経済のおかれた状況と、日本経済の再建と自立過程における自動車工業の位置付け、そしてそれら外部経済の動きが自動車メーカーの外注政策に及ぼした影響を俯瞰し、自動車メーカーの立場にたって外注政策を決定するうえにおいて何を最も優先したのか、あるいは優先せざるを得なかったのかについて論述する。